

平成24年度 児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール

作文の部〈講評〉

今年度は、作文の部で小学校から38編、中学校から22編、合計70編の応募であった。厳正に審査した結果、小学生が、村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞6名、入選7名でした。また、中学生が村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞3名、入選5名であった。この「児童・生徒の平和に関する図画・作文コンクール」趣旨は、「歴史の事実を次の世代へ正しく継承し、平和を尊ぶ心を育てること」さらに、「作文を書くという創作活動により、平和メッセージを発信する」ということで実施されている。

戦後67年の歳月が過ぎた今、戦争体験者も高齢になり、歴史事実の風化が懸念される折、「平和行政推進事業」として企画された意義は大きく、作文の内容にもその趣旨が活かされ、子ども達の平和を希求する思いが伝わる作品が多かった。さらに、教育課題のひとつと言われている「表現力」の育成に資する貴重な機会となったことも評価したい。

審査については、内容を重視し、表現方法、学年の発達段階等も加味しながら、慎重且つ丁寧に審査し、下記のとおり講評とする。

- 1, 小学生村長賞、小淵喜羽さんの作文は、家族ぐるみで戦争の追体験を実践するとともに、戦後の沖縄の移り変わりを通して、透明な感受性で自分なりに大人の話を消化し、自分の考えを素直に表現したすばらしい作品である。
- 2, 小学生教育長賞、當山彩奈さんの作文は、文章構成がとてもよく、平和学習で学んだ当時の少年の心と作者の心が同調しているのが、よく表現できている。小学生教育長賞、てるやさきさんの作文は、起承転結がしっかりした作文であることから「せんそうがこわい」ことが素直に表現できて、わかりやすいすばらしい作品になっている。
- 3, 中学生の村長賞、我如古美沙稀さんの作文は、ソフトな書き出しではじまり、題と結論が明確に結びつき分かりやすい作品になっている。さらに、作者と祖母との温かい人間関係と信頼関係がにじみ出ていること、作者の感受性のよさが表現できたよい作品になっている。
- 4, 中学生教育長賞、上江洲絵連さんの作文は、曾祖母の戦争体験談を聞き、中学生なりに曾祖母の悲痛な心の痛みをしっかりと受け止めて、次世代に不戦の誓いを語り継ぐことを力強く決意している。中学生教育長賞、岸本芹菜さんの作文は、修学旅行で長崎の原爆について学習したことや学校で学んだ平和学習から、沖縄の基地問題を通して、平和について自分の考えを明確に表現できた中学生らしい良い作品である。
- 5, 応募者は、平和学習の授業で学んだことを通して作文に綴っているのが多かった。作品の内容は、平和のありがたさや命の大切さが綴ってあり、その思いが読み手に伝わってきた。子ども達の平和への関心度と意識の高さを感じることができた。
- 6, 中学校の作文の中には、授業で学んだ内容の列挙のみになり、自分の意見が弱い作品も多々あった。
- 7, 本事業への応募には、学校間や学年間の偏りがあり、取り組みの工夫が求められる。
- 8, 原稿用紙の使い方は改善されたが、誤字・脱字等の点検、文章の校正を丁寧に指導する等、基本をさらに大切にしたい。

〈審査委員一同〉